

こども夢新聞

KODOMO DREAM NEWSPAPER

協力
読売新聞
大阪発刊 70年

「こども本の森 中之島」 ここが魅力!



※撮影時のみマスクを外しています

Contents

- 2021 年度こども記者活動報告**
- 2 館長にインタビュー
 - 3 訪れるみなさんへ
 - 4・5 記者のおすすめ、利用者的心声
 - 6・7 こども夢・創造プロジェクトプログラム活動報告

「こども夢・創造プロジェクト」は、さまざまな分野の「プロフェッショナル」を講師に迎え、小・中学生のあこがれの分野や技術、作品づくりなどを本格的に体験できるプログラムです。「こども本の森 中之島」では小・中学生が、新聞記者やカメラマンの指導を受け、施設や利用者取材しました。皆さんが夢に見るプロフェッショナルの世界を実際に体験する貴重なチャンス!

「おもしろそう!」「やりたい!」その気持ちがあればOK!
自分の新たな才能に気づくかも!?

読売KODOMO新聞
よみうりこども新聞

読売KODOMO新聞
無料おためしを受付中
今だけ! 恐竜博士による
ミニ動画がご覧になれます

月額**550円(税込み)** 毎週木曜日発行

問い合わせ先 **読売新聞社 0120-4343-81**
<https://434381.yomiuri.co.jp>

読売中高生新聞

月額**850円(税込み)**
毎週金曜日発行

読売中高生新聞
申込はこちらまで

お客様の個人情報、読売新聞社及びお客様の地域を担当する読売センター(YC)が共同で取得・管理し、配達・集金業務の遂行、各種サービス・イベントのお知らせ、ご購入の延長・再開のお勧め、YC 及び読売グループが協力する・提携する企業等の商品・サービスのご案内、宅配業務などに利用させていただきます。

NONO-50歳 JUDY新聞記者

5人が 取材体験

「こども新聞記者」を体験したのは、小学5年から中学2年までの5人です。読売新聞大阪本社が協力し、2021年10月17日、大阪市北区の「こども本の森 中之島」取材しました。

新型コロナウイルスの感染拡大のため大阪府に出ている緊急事態宣言が、解除された直後でした。常にマスクをつけて手指消毒をするなど感染予防対策を徹底。新しい施設の魅力を伝えるため、スタッフや利用者インタビューしたり、写真を撮影したりしました。

読書中にもかかわらず取材に応じて下さった利用者の皆さんをはじめ、業務の合間にご協力いただいたスタッフの方々、本当にありがとうございました。

(文中の肩書、年齢は取材当時のものです)



【小学5年】桑野 碧 記者



【小学5年】菜原 理央 記者



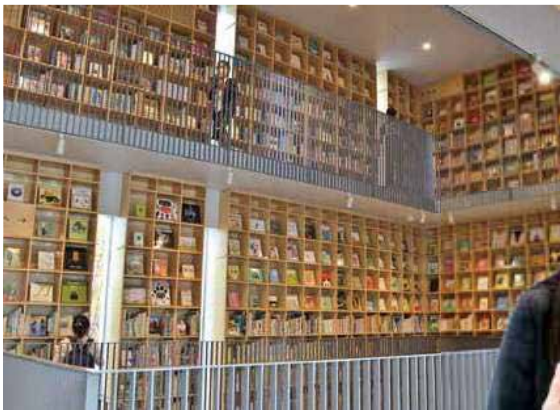
【中学2年】黒崎 ゆりあ 記者



【小学6年】佐藤 優水 記者



【小学6年】山下 紗由 記者



天井まで本が並べられた館内

◎ 桑野記者撮影

前川 千陽館長にインタビュー

「文化施設だからこそできる工夫や特徴があります」



インタビューに答える前川さん
(昨年12月に館長を交代されました)

びっくりした事は、図書館ではなく文化施設だということです。私は「本の森」が図書館のような場所だと思っていました。

図書館ではないので、貸し出しのカウンターや、本をさがす機械がないそうです。90分間、建物の中で本を読み、楽しめます。外で読むことを希望する人は、館内のショップで手続きをして持ち出さなければならない。雨の日には持ち出しできません。持ち出しを希望する人は1日に40人になったこともあると話していました。 【桑野碧記者】

最も気になったのは、この施設にしかないだろうという工夫、施設の特ちょうです。

それは、本の並べ方。天井までぎっしりと本の表紙が見えるようにしてかざられています。なぜかという、表紙でこどもを引きつけるためだそうです。

さらに、本を一冊だけ、中之島公園に持ち出せるということ。どちらも図書館にはなかった工夫や特ちょうです。

館長のお話を聞いて、図書館ではなく、文化施設だからこそできることなのだろうと思いました。 【佐藤優水記者】

2020年7月5日にオープンした「こども本の森」は、コロナ対策のため、今は入館を予約制にしており、ネットで予約するそうです。1日4回に分けて入館をしていて、本を消毒するための機械があります。

図書館ではないので本を読むことしかできませんが、2階で手続きすると、1冊だけ持ち出して、中之島公園のどこの場所でも午後5時まで本が読めます。

館長は、施設の名前に「こども」という言葉がついているので、できるだけ子どもと一緒に来てほしいそうです。 【山下紗由記者】



マスク姿で取材する「こども新聞記者」



【こども本の森 中之島】

「豊かな感性育んで」

開館にあたり安藤忠雄さんから寄せられたメッセージ
(安藤忠雄建築研究所 提供)

地球は一つ。
ここからの社会を担っていく
子どもたちには、元氣よく自由に
世界に向き、羽ばたいてもらいたい。
そのためには幼い頃から
本を読んで、豊かな感性や
想像力を育むことが大切だ。

新しくオープンする
「こども本の森 中之島」が
子どもたちと「自分だけの一冊」
との大切な出合いの場となる
ことを期待している。



Tadao Ando

安藤 忠雄

建築家の安藤忠雄さんが設計・建設し、大阪市に寄附して2020年7月5日に開館しました。堂島川に面した鉄筋コンクリート造りの3階建てで、延べ約800平方メートル。蔵書は約1万9000冊。本は「自然とあそぼう」「未来はどうなる？」など12のテーマに分類されていて、吹き抜けの館内では、閲覧室や階段などで自由に読むことができます。名誉館長はノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さん。

12のテーマ

- 1 自然とあそぼう
- 2 体を動かす
- 3 動物が好きな人へ
- 4 まいにち
- 5 食べる
- 6 大阪→日本→世界
- 7 きれいなもの
- 8 ものがたりと言葉
- 9 未来はどうなる？
- 10 将来について考える
- 11 生きること／死ぬこと
- 12 こどもの近くにいる人へ

伊藤 真由美 新館長からのメッセージ

エントランスにある
青りんごのオブジェのように
生涯いつまでも“青春（＝熟さず青いままのりんご）”の最中でいられる
大人になってほしい。

そんな願いを込めて、
こども達がたくさんの本と出会う
お手伝いができるよう
「本の森」で待っています。



【こども本の森 中之島】提供

「こども本の森 中之島」利用ガイド

- 所在地 大阪市北区中之島1丁目1-28
- 開館時間 午前9時30分から午後5時。
- 事前予約 当面の間、事前予約が必要で1日4回（各90分）の完全入れ替え制。各回定員100人。
開館状況や予約手続きなど、最新情報は下記ウェブサイトを確認をお願いします。
- 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日は休館）、蔵書整理期間、年末年始。
- 入館料 無料

施設の予約や利用に関する最新情報、お問い合わせは下記よりお願いします。

- 公式ウェブサイト <https://kodomohonnomori.osaka/>
- 電子メール ncbf@kodomohonnomori.osaka
- 電話 06-6204-0808（開館日の午前9時30分から午後5時まで）



◎ 桑原記者撮影
この施設には、大人が読むような本や、戦争や命に関する本があります。施設を案内してもらった時、自然や絵画などのきれいなもの、食べることについてのジャンルの本もありました。ここは本を楽しむだけでなく、これからの未来や過去、生活について考えさせられそうだなと思いました。
【佐藤優水記者】



◎ 黒崎記者撮影
「こども本の森」は安藤忠雄さんが大阪市に寄付した文化施設です。所蔵する本の数は約1万9000冊。赤ちゃんから大人まで、幅広い年齢の人が楽しめます。中之島公園に持ち出して読むことができます。午後には、放課後に利用する小学生も多いです。
【黒崎ゆりあ記者】



◎ 山下記者撮影
3階は景色を見ながら本が読めます。そして、吹き抜けなので開放感があります。窓から見える大きな青りんごのオブジェは、安藤忠雄さんが「青春とは、心の若さである。」という本の詩をモチーフにして、作られています。一つの空間があり、景色と一緒に本が楽しめるので個性のある場所だと思いました。
【山下紗由記者】



自分だけの一冊出会う場所



◎ 山下記者撮影
私のおすすめは、コンクリートで作られた円筒形のスペースです。そこは、プロジェクションマッピングができる空間でした。かべにいろんな言葉がとう影されるそうです。
【桑野碧記者】



おすすめ場所は、「生きること/死ぬこと」。全体が円形になっていて、まん中に青くてまるいソファがあります。子どもたちはまるい本だなの中から本をえらび、ソファで読んでいます。中に入ってみると、とてもしずかな空間で集中して本を読めそう。しかし、いごちが良すぎて、ねてしまいそうでした。
【桑原理央記者】



印象的な短文が浮かぶように掲げられた「言葉の彫刻」 ◎ 黒崎記者撮影

利用者に聞きました

初めて利用するという大阪府枚方市の本村裕愛さん(10)は、本が大好きだから来たそうです。読んでいたのは「魔女の宅急便」。映画でやっていた内容の2年後の物語で、ハロウィーンでコスプレをするから読んでいたとのこと。感想を聞いたら「本がいっぱいあって楽しい。また来たい」とコメントしてくれました。
【黒崎ゆりあ記者】

家族4人で来た大阪市都島区の前田英範さん(44)は、今回で5度目。いろんな種類の本がある中から出産に関係する「コウノトリ」を読んでいました。自転車であって、川の近くを通ると気持ちがいいそうです。中之島の施設は環境がよく、ほかの図書館にない本がたくさんあると話しました。
【桑原理央記者】



◎ 桑原記者撮影



スタッフから説明を聞く記者たち



こども夢・創造プロジェクト

とは？

当プロジェクトは、大阪市内の小・中学生を対象にした体験プログラムで、2007年にスタートしました。独自のコンセプトのもと、大阪市と民間企業・団体で構成された実行委員会が企画・運営しています。

15年間で、のべ5144人が236のプログラムに挑戦しました。

目的

体験プログラムの実施を通じて、こどもたちの個性や創造性、将来の夢や希望を育むことにより、次代の担い手となる青少年の健全育成をめざします。

特色

Point1 講師

各分野のプロフェッショナルが講師をつとめるより本格的な体験

Point2 参加方式

意欲をもって自主的・自発的に個人単位で選択・参加

Point3 分野

学校の教科等では体験の機会が少ない分野やより発展させた分野

Point4 内容

ちょっとした体験ではなくじっくり取り組む実践的な内容

Point5 協働

各プログラムは民間企業や団体、専門学校等の協力を得て開催

2021年度

プログラム活動報告

夢に一歩近づいたこどもたちと保護者の方の声を一部ご紹介します。
(写真は一部加工しています)

細胞のふしぎ ~細胞の染色標本を作り、観察しよう~

再生医療の2つの分野をぜいたく体験!細胞工学の最前線で活躍する実験機器に触れ、細胞のふしぎを体感しました。バイオ業界「匠の世界」、病理標本を作製し、顕微鏡で観察しました。

講師 吉野みゆき氏
(大阪バイオメディカル専門学校バイオ学科/バイオ技術学科科長)

細胞の染色標本の制作等、普段、学校ではできないことができたので、とても有意義だったと思う。

本格的な実験機器や方法に触れて、実験の楽しさを知ったようです。将来の職業もそうですが学問自体にも興味を持てるようになった気がします。

「保護者の声」



アシスタントの先生がやさしく教えてくれたので難しい事を理解できてよかった。(中1男子)

「参加者の声」

すごく楽しかったのでもう1回やりたいです。(小5男子)

■協力/大阪バイオメディカル専門学校

世界に羽ばたくダンサー体験!

若手実力派ダンサーによる振付と英語で指導するダンス体験を実施しました。最終日には、保護者を前に発表を行いました。

講師 SHINNOSUKE氏(アカルプロジェクト/ダンサー、シンガー、役者)

やり通す大切さとダンスを楽しんでやっけるなと感じました。「やりたい」と思ったことをやりとげる努力とそれを楽しんで練習も家でも自然とできていた。本番もすごく楽しそうにできていて親もうれしくなった。

「保護者の声」

進学したときに部活動をどうするかなど、ビジョンが自分なりに見えてきたようです。



「参加者の声」

新しく友だちもできてダンス力も上がったと思います。本格的なダンス体験ができてよかったです。(小5女子)

めっちゃ楽しかったです。人に見られるのが楽しいと改めて思いました。(中2女子)



■協力/(株)アカルプロジェクト



参加申込書ダウンロード プログラムレポート 最新情報 など

www.kodomo-yumepro.org

公式ホームページもあわせてチェック!

これまでの開催プログラムレポート(写真・映像/参加者・保護者の声/講師インタビューなど)や最新情報も発信中!プログラム選びの参考にしよう!

ニュース番組制作・アナウンサー体験

J:COMでニュース番組を作っているプロのスタッフから番組制作の基礎を学び、カメラ・スイッチャーなど本物の機材を使ってのニュース番組作りを体験しました。プロのアナウンサーから発声や原稿の読み方の指導も受けました。

講師 堀江良信氏(フリーアナウンサー/Jフットニスタ(ABC)他)
高野由理氏(J:COM/大阪市エリア番組制作責任者)



私と一緒にアナウンサーになりたいお友達としゃべったり本物のアナウンサーさんにアドバイスをもらったりして、とてもゆういきなじかんとりました。とてもいいけいんになりました。ありがとうございました。(小5女子)

「参加者の声」

いろいろなきかいがあって、おぼえるのがたいへんだったから、あらためてテレビ番組を作っている人がすごいと思った。(小4男子)

■協力/(株)ジェイコムウエスト

自分が普段できない経験をできたという想いもあり、いきいきと宿題に取り組んでいました。将来の夢についても大きなヒントになると思います。

「保護者の声」

期待した以上にいろいろな経験ができていと思う。本人も大変だと言っているがとても楽しく取り組んでいる。



本格アフレコスタジオで声優体験!

プロ仕様の本格的なアフレコスタジオを使用し、アフレコの技術の基本を学びました。

講師 mio ミオ氏(レゾナンスMC-DJ講師)

アフレコ体験がとても楽しそうでした。良かったです。ためになるコメントもいただけて良い体験ができました。

「保護者の声」

声優になるためにどんなことを学んでいけば良いか自分で考えるようになり、具体的な努力ができるようになったと思います。



声優に必要なことやスキルがこのきかいで、よくしれてよかったと思います。これから自分がなにをしたいのかをも考えるきっかけになりました。(小5女子)

「参加者の声」

声でどう感情をだすのか、どう聞こえやすくするのか、しっかり学ぶことができ良い経験になりました。(中1男子)

■協力/CATグループ 大阪アニメーションカレッジ専門学校

その他のプログラム...

ウッドデザインワークショップ
■協力/オスモ&エーデル(株)

ゲームプログラミング体験
■協力/清風情報工科学院

キャラクターやマンガを描いてみよう!
■協力/大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

書の体験 ~スーパーキッズ書道~
■協力/NPO法人 書道スーパーキッズの会

令和4年3月25日(金)~4月1日(金)まで
平日の午前9時~午後5時半

大阪市役所正面玄関ロビー

において、写真や作品等の展示を行います。

効果 本事業の参加者を調査し効果を測定した結果、こどもたちの「生きる力」に関する能力が向上していることが明らかになっています。

「こども夢・創造プロジェクト」は
大阪市と民間企業・団体の協働により
実施しています。

実行委員会(2021年度)

実行委員長 今西幸蔵(高野山大学文学部教育学科主任兼特任教授)

構成団体

読売新聞大阪本社 大阪市

協力団体(2021年度・順不同)

こども本の森 中之島/清風情報工科学院/
大阪バイオメディカル専門学校/(株)アカルプロジェクト/
(株)ジェイコムウエスト/NPO法人 書道スーパーキッズの会/
CATグループ 大阪アニメーションカレッジ専門学校/
オスモ&エーデル株式会社/大阪芸術大学附属大阪美術専門学校/
読売新聞大阪本社/大阪市こども青少年局

ProgLab

阪急阪神 x gtv x 読売新聞

ロボットプログラミング教室プログラボの

新聞の
ちから

ロジカルリーディング・
ライティング講座

講師は
記者経験者!

新聞をテキストに、
読む力 書く力 伝える力
が身につきます。

対象: 小学4年生~高校3年生

新入塾生 募集中

詳しくはプログラボHPへ





...入門?

宇宙飛行士
にゆうもん中

...New門!

「ニュースのポイントを解き明かす連載」



今日もひらく。明日をひらく。

読売新聞

New 門
ニュースの門

購読のお申し込みは、読売新聞販売店または0120-4343-81まで

「New 門」読みくらべ
家族でニュースを楽しもう!

読売新聞と読売KODOMO新聞では
月1回、同じ日に共通テーマの記事を
掲載しています